

令和6年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立白子中学校					
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価	
学力向上×ICT活用	1 授業改善 「授業力UP5★」に基づく授業づくり - ICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びの実現 2 基礎学力の向上 - よむYOMUワークシートの効果的な実施 - 端末を活用した家庭学習及び自主学習の定着 ※学調全国平均以上 ※週3回以上授業中意見交換や自分の考えをまとめ、発表する場面でクロームブックを使う 30%以上	1 授業改善 - 学調では国語・数学ともに全国平均を上回ることができた。 - ICTの活用が進み、生徒の78.1%は週3回以上授業で使っている。 - クロームブックの使い方について校内研修を2回実施した。 「生徒が取り組みたいと思える課題の設定」をテーマに、授業公開週間や研究授業を実施した。 - ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びについてはまだ実践例が少ない。 2 基礎学力の向上 - よむYOMUワークシートは計画的に実施した。また、国語科では、難しい問題については授業の中で解説を加えることとした。 - 家庭学習に端末を活用しているが、家庭学習の時間が少ないという課題がある。	・引き続き、ICTの活用を進めるとともに、協働的な学習の時間を増やし、授業改善に取り組む。 ・家庭学習でのクロームブックを活用を増加させる。	・クロームブックは小学校から取り入れられており、既に定着し効果も出ていると思われる。一方で、苦手な生徒、理解の遅れている生徒へのフォローも考えるべきである。 ・学力が向上したのは、ICTの成果なのか学習時間の増加なのか明確になるとよい。 ・ICTの活用が教員からの一方的な授業ではなく、画像や動画を取り入れ、主体的で協働的な授業ができてよい。 ・家庭学習の少なさについて、家庭の協力も得ると良い。 ・家庭学習について宿題でICTを活用したものを増やしてはどうか。 ・グループワークは生徒同士で考えを深めることができるので良い取組であると考ええる。	
長期欠席対策	1 学級経営力の向上 - 生活ノートを活用した綴る取組の推進 - 校内研修の充実 2 SC、SSW、不登校対策アドバイザーとの連携 - 欠席累積15日以内での校内ケース会議の開催 - 支援部会の充実 ※クラスで安心して学ぶことができる生徒 90%以上	1 学級経営力の向上 - 生活ノートの活用、学級経営に関する校内研修を実施した。 - クラスで安心して学ぶことができる生徒：92.9% - 長期欠席生徒は昨年度より増加している。 2 SC、SSW、不登校対策アドバイザーとの連携 - 対象人数があまりにも多く校内ケース会議を実施できなかったものもある。 - 生徒支援部会の持ち方を改善し、支援の手立てを話し合える時間を確保した。 - SSWやアドバイザーに支援部会に参加していただき、的確な助言を得た。	・生徒支援部会においてSC等から情報を得るとともに、家庭との連携を強化する。 ・すずっこファイルを活用し、支援の方法について定期的に見直しを図る。	・生徒一人一人のサインは異なり、寄り添うことの大変さは保護者の協力なしにはできないと思うが、組織的な支援をお願いしたい。 ・すずっこファイルを大切にし、引継ぎで活用してほしい。 ・学校と家庭とで子どもの様子や将来の意向等話し合う機会を増やし、情報共有を密にする。 ・SCや支援員の情報を活用したり、アドバイザーと連携を図ると良い。 ・学級が生徒たちにとって安心できる居場所であるといい。 ・生徒個々にケースが違うので、不登校の原因調査も難しく、また、対応も難しい問題であると思われる。 ・条件整備は必要であるが、誰もが投稿可能なSNSを構築してはどうか。 ・SC、SSWを増員し、きめ細かい対応をする必要がある。	
地域連携	1 校区で共通した生活習慣等の取組 - 家庭学習及び生活習慣を見直す取組の実施 2 地域とともにある学校づくり - 拡大学校運営協議会の開催 - 保護者や地域への情報発信 ※HP更新50稿以上	1 校区で共通した生活習慣の取組 - 今年度から「ノーメディアデー」から「生活習慣改善週間」へと変更した。発達段階に応じた取組ができた。 2 地域とともにある学校づくり - 拡大学校運営協議会を開催し、非認知能力の育成について、学校・家庭・地域がそれぞれにできることを交流できた。 - HPは12月時点で30稿の更新にとどまっている。	・地域に向けた情報発信に努めるとともに、校区全体の取組については、地域への周知を図る。 ・挨拶運動や地域行事への参加等、今後も連携を深めていく。	・校区全体で取り組む「生活習慣改善週間」等については、地域の各自治体にも知らせ、協力を募ると良い。 ・生活習慣改善について、家庭との連携を強化すべきである。 ・交通ルールやマナーについては、地域の協力も得ながら組織的に実施していく必要がある。 ・「敷居」の低い、間口の広い学校にすることで、協力体制が生まれる。 ・正確でこまめな情報発信をしてほしい。 ・挨拶運動も含めて連携できている。 ・祭りなどの地域行事を大切にしてほしい。 ・学校運営協議会の枠を超えて地域連携が広がると良い。 ・子どもが自然に地域のボランティア活動ができる会があると良い。	
非認知能力育成	1 自治的活動の充実 - 生徒会等を中心とした主体的な活動の推進 2 自己肯定感の醸成 - 積極的な承認活動 ※自分には良いところがあると思う生徒80%以上	1 自治的活動の充実 - 生徒会は生徒の声を吸い上げる「ききみみ」という取組を実施している。 - 文化祭では、有志が自分たちで考えた人権に関する寸劇と漫才を発表した。 2 自己肯定感の醸成 - 学級通信等で生徒の良かった点を発信した。 - 先生はあなたのよいところを認めてくれると答えた生徒：97.2% - 自分には良いところがある生徒：81%	・生徒主体の活動を増やすとともに、振り返りの活動を通して、生徒が自身の成長や良さに気づけるようにする。 ・非認知能力育成の視点でこれまでの教育活動を見直す。	・生徒が主体的に行動でき、達成感が味わえるように見守りたい。 ・地域の行事に参加し、コミュニケーションを図り、地域づくりの担い手に育ってほしい。 ・一人一人の個性を大切にし、自分自身の良さを考えさせる。 ・社会性について他者とのコミュニケーションをもう少しスムーズにできると良い。 ・グループワークの機会を増やしたり、生徒に自信をもたせるような指導を継続してほしい。 ・非認知能力の育成に取り組んでほしい。 ・講演会で聞いた「～したい」を大切にする学校づくり、心が安定する生活、愛着が持てる地域づくりというのが良いと思う。	
働き方改革	1 時間外労働時間の削減 - 定時退校日の設定 - 電話対応時刻の設定 - 業務の精選 2 教職員の働き方に対する意識改革 - 安全衛生委員会での検討 - 計画的な年休取得の推進 ※一人当たりの1か月時間外労働時間 平均35時間以内	1 時間外労働時間の削減 - 昨年度と比較して時間外労働時間は少なくなっている。 - 一人当たりの1か月時間外労働時間は37.76時間 2 教職員の働き方に対する意識改革 - 定期テスト、長期休業中等時間休を取得することはできている。 - 職員室が分散したことは意識の変化につながったと考えられる。 - 個人差が激しく、月に時間外労働が80時間を超える職員が固定されている。	・ICTの活用により更に時間外労働を削減できるよう取り組む。	・教員各個人の努力で改善されている中で、効率の良い働き方改革を見出し、てほしい。 ・昨年度に比べて改善が見られている。 ・仕事量や内容の見直しは必要である。校内に19時までしかいられない等強制力も必要かもしれない。 ・生徒に接する時間や自身のスキルアップのための時間がもっと取れる環境になると良い。 ・引き続き改善していくべき課題である。	